

中学校地理的分野（日本の諸地域）における価値判断型の授業づくり

ー北陸新幹線を例にー

坂田元丈（富山大学人間発達科学部附属中学校）

5

【キーワード】価値判断，討論，選択の基準，北陸新幹線，他地域との結びつき

1. 問題の所在

(1) 地理的分野における価値判断を問う授業

10 中学校社会科において，価値判断を迫る授業実践は散見されるが，地理的分野における実践は公民的分野などに比較して少ない。今回は「ディベート的な討論（以下，討論）」を取り入れることで地理的分野において価値判断力を育むことを期待した授業実践を行った。

(2) 価値判断を問う際の選択の基準の設定

価値判断を行う際には，判断するための基準が必要だと考える。そのため，今回の20 討論では「選択の基準」を設けて，それを論点に話し合いを行った。

2. 授業の実際

(1) 北陸新幹線開業の有益性の有無の判断

25 ①授業の目標

北陸新幹線開業が地域にどのような影響を与えるのかについて考察することを通して，北陸地方の他地域との結び付きを捉えさせる。そのため，生徒がより切実感をもって取り組めるように，本校が位置する富山県を視点にして「北陸新幹線開業は富山県にとってどうなのだろうか」という課題を設定し，その影響について考えさせた。「どうなのだろうか」という問いに対して，35 「よいことである」もしくは「よくないことである」という立場からそれぞれ理由付けを話合うという授業が展開された。富山県にとってどうなのかを判断するにあたり，富山県と他地域との人々の「長距離移動の40 利便性の有無」や住民の移動手段や観光客の2次交通手段である「近距離移動の利便性の有無」といった『移動の利便性の有無』と，地域間の人々の流動がおこることによって発生する『経済波及効果の有無』の2つ

45 を『選択の基準』として討論を行った。討論は話し手と聞き手が入れ替わりながら展開することから，自分の立場等との共通点や相違点について比較・分類することが可能であり，異なる視点や価値観に気付くことができる。また，自分の見方・考え方を根拠付けけるものに留意したり，同じ根拠であっても違う解釈が成り立つことに気付いたりすることができることから，思考力・判断力・表現力等を育む効果が期待される。55 この討論を通して，北陸地方の地域的特色を多面的・多角的な見方や考え方で捉えることで，今後の社会的事象の変化に対する社会的判断力を高めさせようとした。そのために，北陸地方の地域的特色や先行事例60 などの知識や新幹線開業など高速交通網が地域の結び付きにどのような影響を与えるのかの概念を用いて思考し，命題に対して価値判断できるようにした。

(2) 価値判断力の評価問題

65 ①評価問題

表1 実施した評価問題

四国新幹線(仮称)が松山[松山～新神戸 停車駅：松山・徳島・新神戸]まで開業 したら、徳島県はどうなるだろうか。
--

70 本評価問題は，中学校第2学年の思考・判断・表現の能力を評価しようとしている。評価問題で扱う資料は授業では用いられていない資料を用意し，以下の評価基準を設定して出題した。

75 ②評価基準

表2 評価基準

<メリット> ・ ストロウ効果がおこると，地域の都市機能が他の地域に流出したり，停車駅のない地域の経済が衰退したりする。 ・ 移動時間が短縮されれば日帰りをする
--

	観光客やビジネス客が増加するので、宿泊業が衰退する。
85	・第3セクターなど地域密着型の交通機関の経営が悪化すれば、運賃が高くなり本数が削減されるので、地域住民の移動手段の利便性が下がる。

	<デメリット>
90	・地域外からの交流人口が増加すれば、観光産業をはじめとする地域内の経済が活性化する。
	・移動時間が短縮されれば、大都市圏への移動がしやすくなるので、地域の人々の仕事・学習・余暇などの機会が増える。
95	・地域外からの交流人口が増加すれば、2次交通を地域外利用者が使うので、地域の交通網を維持が可能となる。

③プリテストとポストテストの比較

表3 解答例

100	プリテスト(複数回答, 40名に実施)	
	・観光客が増える	2 5
	・人口が流入する	1 3
	・人口が流出する	1 1
105	・関西方面に働きに出る	7
	(ストロー現象と書いている 内1)	
	・自然破壊がおきる	7
	・お店が増える	3
	・宿泊業がもうかる	2
110	・公共交通(鉄道・高速)が衰退	2
	・交通網が必要になる	1
	・事故が増える	1
	・旅行会社が増える	1
	・騒音被害	1
115	・工業が衰退する	1
	・観光客が減る	1
	ポストテスト(複数回答, 40名に実施)	
	・松山に観光客を奪われる	2 0
	・首都圏・関西圏から観光客増加	1 5
120	・日帰り客が増加し、宿泊業衰退	1 5
	(日帰り客は観光地をまわる 内1)	
	・地元の交通網へダメージ	1 4
	・駅周辺だけが経済発展する	1 2
	・都市部に人材が流出する	7
125	・PRすれば観光はさかんになる	5
	・観光客が2次交通を利用する	3

	・高齢者など都市に行きやすくなる	2
	・自然破壊	2
	・旅行会社が増える	1
130	・人口が増加する	1
	・医師不足の街に医師が回れる	1
	・技術が集まる	1

3. 成果と課題

(1) 成果

他に応用して考え、自ら解決方法を見つけ、取捨選択したことを言語化する能力を評価するという点から、授業で扱っていない資料を用いたので、仮説について検討できる問題であったと考えられる。ポストテストでは「ストロー現象」の概念を用いて、観光客が松山に奪われることや他の都市に若者や買い物客が流出してしまうことを指摘したり、新幹線の高速度交通網が開通することによる地元交通網の衰退を指摘したりしているなど、北陸新幹線の学習で得られた「概念」を用いて説明できている。

(2) 課題

プリテストでは「人口が増加する」または「減少する」と答えているものの、理由付けの「概念」の部分がかかれていなかったり、理由自体が書かれていなかったりする。「観光客が増加する」と書いてはあるが、その問題点や条件が書かれていない場合もある。学習で得られた「概念」を用いて、新たな命題に対し、思考・判断・表現する力を伸ばしてゆきたい。また、ポストテストにおいて、変容が見られない解答も散見されているので、その原因を解明してゆきたいと考えている。

【参考文献】

- ・岡崎誠司『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房2013
- ・高良祐治「社会を形成する一員としての判断力としての社会科学習ー価値判断を迫る討論活動を位置付けた学習の展開」『教育実践研究』2007福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター, 15, p. 113-119